

はくぶつかんネット



化石展 一土の中からお宝発見！— が開催されました！



昨年、7月24日(水)～9月22日(日)に行われた博物館開館20周年記念企画展Ⅰ「化石展—土の中からお宝発見！—」では、会期51日で、7,678名もの観覧者が訪れました。

夏休み期間とあって、親子連れの来館が多く見受けられました。多くの方々のご観覧くださいまして、誠にありがとうございました。

本企画展は、沖縄県立博物館・美術館からマンモスやプロバクトロサウルス、タルボサウルス等の恐竜の化石(レプリカ)

をお借りし、宜野湾市の台地を形成する琉球石灰岩の中にも恐竜の時代までは及ばないにせよ、土の中からはリュウキュウジカやリュウキュウヤマガメ等の化石が発見されるといった、わたし達が生活している台地からも化石発見の可能性があり、足元に興味を持ってもらおうと企画した展示会でした。

恐竜以外にも北九州市立自然史・歴史博物館からイナバテナガコガネや、琉球大学博物館(風樹館)からヤンバルテナガコガネ、本部町立博物館からアンモナイトの化石をお借りして展示するなど、日ごろは見られない資料に、子ども達の「うおっ!」「すげえ〜」という驚きと感動、不思議そうな表情が印象的でした。

今後も当館では、さまざまなジャンルの企画展を開催いたしますので、見ることや体験、遊びを通じて得る喜びと感動から、宜野湾や沖縄について、もっと興味を抱いてほしいものです。

多くのご来館、ありがとうございました!



琉球石灰岩の展示を見つめる子どもたち



夏休み期間中、市内外から学童クラブのみなさんが見学に来てくれました。



迫力ある恐竜化石(レプリカ)



慰霊の日写真パネル展 沖縄戦の中の宜野湾



市立博物館では、戦争の記憶を次の世代へ継承することを目的に、毎年慰霊の日の時期に合わせて企画展を開催しています。今年度も6月12日(水)から7月7日(日)まで、写真パネル展「沖縄戦の中の宜野湾」を開催しました。戦前ののどかな農村風景と戦争によって変わってゆく宜野湾、住民の行方、戦後の伊佐浜の土地闘争などの写真パネルを中心に、戦争体験者の証言集、沖縄県平和祈念資料館提供の映像資料など、224点を紹介しました。

開催期間中は1,539名のご来場があり、保育園児・中学生・デイサービスなど幅広い世代の方がたに平和学習の一環として展示をご活用いただきました。

関連市民講座「語やびら、イガルーシマ～神山編～」

6月に開催した関連市民講座では、戦前の神山地域をよく知る大先輩をお招きして、当時のくらしと楽しかった思い出、ご自身の戦争体験を教えてくださいました。



仲本とみさん

小さい頃はジノーンナンマチの木漏れ日のなか、小学校へ通ったよ。木陰が涼しくて、夏も快適に歩くことができたよ。

戦時中はひめゆり学徒で、たくさんの友達が亡くなった。あんなひどい事は二度とおきてほしくないよ。

昔の神山は闘牛が盛んで、牛を飼っている家が多かったよ。闘牛場から牛が逃げて、大騒ぎになったこともあったよ。

戦時中は九州の部隊に徴用されていて、終戦後に沖縄へ帰ってきたら、見慣れた故郷の風景はなくなっていたよ。



宮城真吉さん

神山の皆様、ご協力ありがとうございました！

夏休み企画 こども博物館教室が開催されました!

市立博物館では、8月に小学3年生～中学3年生までの児童・生徒を対象に、「こども博物館教室」を開催しました。この企画は、学習の場としての博物館活動の充実を図るとともに、夏休みの自由研究のきっかけづくりとして毎年夏に開かれています。

第1回 葉脈標本をつくろう!

8月4日(日)実施



身近にある葉っぱを観察して、葉脈標本(葉脈のしおり)をつくる教室です。葉脈標本の作製から葉っぱの仕組みを考えました!



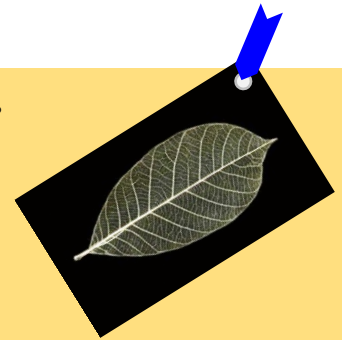
まずは、森川公園で葉っぱを採取



採取した葉っぱを、薬品で煮ます。



柔らかくなった葉肉を、歯ブラシで叩いて落とししていきます。



葉脈のみになったら、水気を十分にとって、ラミネートすれば、しおりの完成!

綺麗ケロ～



第2回 化石のレプリカをつくろう!

8月9日(日)実施



開催中だった「化石展」に関連して、化石のレプリカをつくる教室です。博物館における、レプリカの重要性も学びました!

※今回は、湿度が高くて固まりにくかったので、型に入れたまま持ち帰ってもらいました。



化石から型取りを行います。



水と混ぜた石膏を型に流し込みます。



石膏が固まるまで、開催中の企画展を見学!



型を外すとこのように! (下は色を塗っています。)

本物の化石を使ったんじゃ!

色の塗り方次第で、本物そっくりのレプリカが作れるよ!



第3回 葉っぱのおもちゃをつくろう!

8月19日(日)実施



トゲのないアダンの葉っぱを編んで、昔のおもちゃをつくる教室です。エンゼルフィッシュや指ハブ、カタツムリなどを作りました!



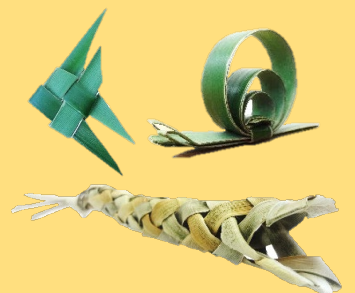
裁断されたアダン葉は、作るものによって、長さや太さが異なります。



指ハブ(ハブグウ)は、やはり難しい!?



学芸員実習生のお兄さんたちにも聞きながら、完成させました。



左上:エンゼルフィッシュ
右上:カタツムリ
下:指ハブ(ハブグウ)

沖縄県地域史協議会 2019年度 第2回研修会

10月4日(金)、沖縄県立博物館・美術館において沖縄県地域史協議会の第2回研修会が行われ、136名の地域史編さんに関わる機関や関係者が参加しました。

研修会では午前中に那覇市内の台湾と沖縄に関連する史跡等(護国寺・台湾遭害者之墓・小桜の塔・孔子廟・旧孔子廟・明倫堂ほか)を又吉盛清氏(沖縄大学客員教授)と久部良和子氏(沖縄県立博物館・美術館)のガイドで巡見しました。

【「近代沖縄と日本」を感じ・考える巡見】

護国寺内にひっそりとたたずむ「臺灣遭害者之墓」。近代沖縄が日本の版図の中に位置づけられるきっかけとなった「牡丹社事件」の発端になった宮古島島民被害者の墓です。すぐ隣の公園には学童疎開船対馬丸に乗船し犠牲になった人たちの慰霊塔「小桜の塔」があります。また近くにある「海底電信線記念碑」なども『近代沖縄が日本に翻弄される歴史』というキーワードで見つめ直すことで、新たな意味を読み取ることができます。その他にも、中国と琉球の交流の歴史の中でつくられた「孔子廟」や「天尊廟・天妃廟」など、現在も息づく「中国文化の姿」を見学してきました。



孔子廟、「臺灣遭害者之墓」など沖縄と中国、および日本との関係性を感じる場所を巡見しました。

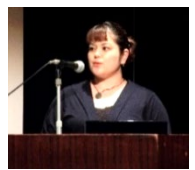
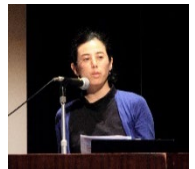
【研修会】

講演会ではジャーナリストの松田良孝氏【写真・上】から「八重山と台湾の関係を取材して」と題して、台湾疎開について、台湾の史料調査時の様子や貴重な史料を紹介・説明していただきました。それら史料は、個人情報が多く、取り扱いに慎重を要するものであり、台湾疎開時の様子をありありとかがい知ることの出来る貴重な内容が多く含まれたものでした。

報告Ⅰでは、沖縄県公文書館の小野百合子氏【写真・中】より「琉球政府文書デジタルアーカイブが目指すもの ～米国統治下27年間の記録を未来に繋ぐ～」と題して、琉球政府文書デジタルアーカイブの利用方法をはじめ、リニューアルの背景や利用者の裾野拡大など、デジタルアーカイブの現状と課題も含めた報告がありました。

報告Ⅱでは、琉球大学講師の中村春菜氏【写真・下】より「台湾引揚者の声に耳を傾けて」と題した、台湾引揚者研究のきっかけや、調査研究を進めるうえで記憶に残っている事などお話していただきました。最後に地域史が背負っている職責として、成果を社会に還元することの大切さと、開かれた地域史・家族史を進めるためにも証言集を発刊することの重要性を熱く語っていました。

地域史編さんを進めていくうえで、参考となる貴重な研修会となりました。



🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸 沖縄県博物館協会の秋の研修会 開催! 🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸🌸

10月31日(木)、11月1日(金)に沖縄県博物館協会の秋の研修会が、沖縄県立博物館・美術館で開催されました。

1日目は、「博物館における防災管理」をテーマに講演が行われました。はじめに、「危機管理教養～迫り来る災害～」と題して、大城 靖氏(沖縄県知事公室防災危機管理課副参事)の講演が行われました。東日本大震災や熊本地震など近年日本各地で起きている地震の例をあげ、災害への備えについて詳しく説明していただきました。

その後、「奄美豪雨被害からの復興」(福原 凡香氏)、「博物館の防災ネットワーク」(大湾 ゆかり氏)、「岩手県震災復興支援派遣について」(具志堅 清大氏)と、3本の報告が行われた後、1日目の研修会は終了しました。

今回、防災をテーマにして研修会を行うことが決まり、事前に準備を進めてきました。そのような中、31日の早朝、首里城正殿で火災発生という衝撃的なニュースが飛び込んできました。沖縄県博物館協会の会員は、沖縄県や奄美諸島にある博物館です。それぞれ歴史的な資料を管理していることから他人事ではないという気持ちで、参加者一同言葉にできない思いを抱きながら、同時に、防災に対する意識をより強くした研修会となりました。

2日目は、同じく沖縄県立博物館・美術館で施設の見学が行われました。自然・人文・美術館の3つのコースに分かれて見学し、それぞれ収蔵品をどのような形で管理しているのか学ぶ良い機会となりました。



▲研修会の様子(1日目)



▲講演者の大城 靖氏(1日目)



▲開会式の様子(2日目)



▲館内施設見学の様子(2日目)

令和元年度ぎのわん教育月間関連行事・開館20周年記念企画展 II
埋蔵文化財公開活用合同企画 掘り出された戦前の沖縄

変わいゆく街並み

～^{にし}西^{ふてんま}普天間の移い変わい～

西普天間(旧キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区)は、平成 25(2013)年に日米安全保障協議委員会(SCC)の共同発表で返還が公表された地区で、この発表で示された計画において最初に返還された在沖米軍基地になります。加えて、平成 24(2012)年に改正された「沖縄県における駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に関する特別措置法」施行後に返還された最初の基地であり、基地跡地利用の先行モデルとして位置付けられました。このようなかで、西普天間では市民が中心となって跡地利用が推進され、新たな街へと生まれ変わろうとしています。そこには、発展する宜野湾の未来像が描かれていますが、かつての西普天間もまた、宜野湾の人びとの生活を支える地域でした。この企画展は、今後発展を遂げる西普天間を中心としたキャンプ瑞慶覧はどのような場所だったのか、西普天間を知るきっかけとして、10月30日(水)～12月22日(日)まで、45日間開催され、2,858名の来館者を数えました。



昔はトロッコが走っていたんだ。

たくさんの子もたちが社会科見学に来てくれました。

昔はお米も作っていたんだ。

西普天間(平成28年度)



重い...

西普天間の道路はアメリカの州の名前がついていました。

ハウジングエリアの標柱は博物館職員が収集し、文化課職員の手を借りて展示しました。



お墓に入ろう。

本企画展は、市立博物館開館20周年記念企画展第2弾として開催しましたが、沖縄県立埋蔵文化財センターが中心となって企画した「2019年度埋蔵文化財活用合同企画-掘り出された戦前の沖縄-」との合同開催で、県内11施設で関連する企画展が行われました。合同企画展ではスタンプラリーも行われ、スタンプが揃うと戦前の沖縄で庶民に重宝された「ハンドゥガーミ」がキャラクターの背後に浮き上がります。

今回は、(株)島田組沖縄支店の後援により、VR(仮想現実)を活用した展示を行うことができました。西普天間は返還されたとはいえ、なかなか入ることができません。そこで、実際に西普天間にある洞窟(喜友名フトウキャアブ)や、イシジャーと呼ばれる渓谷に造られた古いお墓に入る疑似体験ができるコーナーを用意しました。西普天間で大切に守られてきた文化財を身近に感じられたのではないのでしょうか。

令和元年度 地域との共同企画展「ぎのわんの^{あざ}“字”展」

ぐんじんめえ 権現前十千ヨル、フティマ 普天間ムラ



市内の一つの“字”にスポットを当てて、地域の歴史や文化を紹介する「ぎのわんの“字”展」を2020（令和2）年1月22日（水）～3月1日（日）の期間で開催しました。

12回目の開催となる今回は、「普天間」がテーマでした。遺跡から出土した遺物や、明治～戦後にかけての普天間の歴史、琉球八社の一つである普天満宮・普天満山神宮寺、普天間の獅子舞やマールアシビといった芸能、普天間区各自治会の活動の様子や、普天間の皆さんから寄贈して頂いた道具などを展示しました。

期間中、1,314名の観覧者が訪れ、「地元普天間の企画で、懐かしさと亡き父の若い頃の元気な姿を見ることができ、感動しました」、「生まれ育ったなつかしい普天間を見れてとても良かった」、「忘れていたことがよみがえり、楽しくなりました」といった感想を聴くことができました。貴重な資料を提供して頂いた普天間の皆さん、本当にありがとうございました！



明治～戦後の普天間の歩みや、昔なつかしい戦後の様子を展示しました。



映像コーナー

普天間の獅子舞を上映しました。



普天満宮に残る石灯籠



普天間松籟碑（しょうらいひ）の拓本



自治会コーナー

普天間1区、2区、3区自治会の活動の様子を紹介しました。

普天満宮の石灯籠や、普天間松籟碑の拓本を展示しました。これらは、大正～昭和戦前期に本土の寄留商人や那覇煙草小売組合などが寄進したものです。

普天満宮境内では、寄進された鳥居や狛犬なども見ることができるケロ



展示解説の様子



令和元年度 博物館市民講座

を振り返って

令和元年度の市民講座は、琉球大学名誉教授の高良倉吉先生による、市立博物館開館 20 周年記念講演をはじめとして、計 17 回開催し、累計で 670 名もの方々にご参加頂きました。本当にありがとうございました！

次年度の市民講座もどうぞ、ご期待ください！

第1回:6/2 市立博物館開館 20 周年記念講演 「琉球王国時代の宜野湾」



高良 倉吉(琉球大学 名誉教授)

市立博物館の開館 20 周年を記念して、市立中央公民館2階集会場で行いました。察度の伝説や小祿墓に眠る「おろく大やくもい」について、そして近世における宜野湾間切や佐喜眞興英のことなど様々な面から宜野湾についてお話を頂き、180 名余りの方が熱心に耳を傾けていました。

第2回:6/16 「語やびら、イガルーシマ～神山編～」



仲本 とみ、
宮城 眞吉(字神山郷友会)

戦前・戦中の字神山の様子やお二人の体験が語られ、平和の尊さを学びました。

第3回:7/7 「宜野湾、戦跡めぐり」



平敷 兼哉
(市立博物館 主幹)

嘉数高地の戦跡や我如古チンガーガマなどを案内し、宜野湾における戦争の状況を紹介しました。

第4回:7/14 「ぶらっと、博物館めぐり」



上地 克哉
(カガミミュージアム文化振興課長)

ユンタンザミュージアムと世界遺産座喜味城跡を見学しました。

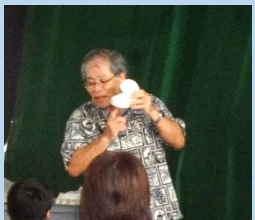
第5回:7/28 「生きた化石の話」



佐々木 健志
(琉球大学博物館 風樹館 学芸員)

沖縄だけに生息する「生きた化石」を紹介し、数千万年前の昆虫の化石などを観察しました。

第6回:8/11 「化石が語ること」



大城 逸朗
(おきなわ石の会 会長)

伊江島タッチューから出土する化石などから、大地や地球の成り立ちの面白さを学びました。

第7回:9/1 「マース(塩)の話」



儀間 淳一
(沖縄国際大学 非常勤講師)

塩の種類から沖縄の採塩・製塩方法、塩田の分布、塩にまつわる民俗儀礼などを学びました。

第8回:9/15 「大山の自然観察」



千木良 芳範
(市立博物館 館長)

ターム畑で動植物の観察を予定していましたが、惜しくも雨のため中止となりました。次年度リベンジの予定です。

第9回:10/20 「泡盛の話 ～宜野湾と酒あれこれ～」



萩尾 俊章
(沖縄民俗学会 会長)

泡盛の歴史や文化、宜野湾にかつてあった酒造所等についてお話し頂きました。

第10回:10/27 「収容地をめぐる～南部編～」



仲村 元惟
(宜野湾市史編集委員会 委員)

南部の収容所跡や戦時中～戦後初期の出来事にまつわる場所を巡りました。

第11回:11/17 「西普天間の発掘調査から」



仲村 毅
(市教育委員会文化課 主任主事)

西普天間住宅地区で見つかった遺跡やその発掘調査の方法・成果などを紹介しました。

第12回:12/1 「伊佐浜の土地闘争」



鳥山 淳
(琉球大学島嶼地域科学研究所 教授)

「伊佐浜の土地闘争」について、関連史料を用いて解説して頂きました。

第13回:12/8 「湧水めぐり」



伊藤 圭
(市立博物館 主任主事)

西普天間を含む市内の湧水をめぐり、その特徴や活用方法などを紹介しました。

第14回:1/26 「漆器の歴史と技法」



前田 春樹、前田 貴子、
森田 敦子(漆実験工房)

首里城の復元に携わった先生方に、漆器の歴史や沖縄の技法などを紹介して頂きました。

第15回:2/2 「冬の森川公園散歩」



千木良 芳範
(市立博物館 館長)

冬の森川公園を散歩しながら、様々な生き物・植物を観察しました。

第16回:2/9 「漆の技法体験」



前田 春樹、前田 貴子、
森田 敦子(漆実験工房)

沈金技法によって、受講者オリジナルの漆器プレートの作製体験を行いました。

第17回:2/16 「普天満宮と普天間」



新垣 義夫
(普天満宮 宮司)

普天満宮のこと、戦前・戦後の普天間の街並み等についてお話し頂きました。

第20期 わらば～体験じゅく

「わらば～体験じゅく」は、日常生活ではあまり関わることの少ない宜野湾を中心とした郷土の自然や文化などを、体験を通して学習することを目的とするものです。対象は、宜野湾市在住の小学5・6年生。6月から2月の年9回、児童が協力して体験学習を行うことで、他校、異学年の生徒同士で交流し、協力することの大切さを学びました。

第1回 6月15日(土)

開校式・博物館見学と道具体験
(博物館職員)



開校式を行った後、博物館見学と昔の道具体験を行いました。

第2回 7月27日(土)

沖縄の石と化石の不思議に迫ろう！
(沖縄県立博物館・美術館 宇佐美 賢)



▼化石は見たかな？

▲琉球石灰岩を観察中



琉球石灰岩を見て、削り、岩石中に含まれる化石を探しました。

第3回 8月17日(土)

漆喰シーサーをつくろう！
(わにや耕房 比嘉 和行)



漆喰と赤瓦をつかって、自分だけのオリジナルシーサーをつくりました。

第4回 9月7日(土)

喜友名のシーサーめぐり
(博物館職員)



喜友名地区で、市指定文化財の「喜友名の石獅子群」をみんなで、探しました。

第5回 10月19日(土)

田イモの植付けに挑戦！
(石川 達義)



大山の畑で、宜野湾市の特産品である「田イモ」の植付けに挑戦しました。

第6回 11月16日(土)

漆の技法体験
(漆実験工房のみなさん)



沖縄の伝統工芸である漆の技法(沈金)の体験をし、オリジナルの漆のプレートをつくりました。

第7回 12月21日(土)

ウシのお世話をしてみよう！
(宮城 邦治・喜屋武 盛信)



みんなで、闘牛のお世話をし、動物を世話する大変さや、動物のぬくもりを感じました。

第8回 1月18日(土)

田イモの収穫挑戦！
(宮城 徳彦)



10月に田イモを植えたので、1月には、田イモの収穫を行ないました。寒い中でしたが、みんな一生懸命に体験していました。

第9回 2月15日(土)

森川公園探検・閉校式
(博物館職員)



森川公園で自然観察をした後、教育長より、修了証書とわらば～名人認定証が授与されました！

今年度は、26名がわらば～じゅくを修了！

その内、7名が「わらば～名人」(皆勤賞)に認定されました。

市史だより がちまやあ Gači-majaa



◇宜野湾市史 最新刊

『伊佐浜の土地闘争』

(宜野湾市史 第8巻 資料編7 戦後資料編Ⅱ)

発刊によせて

戦後沖縄を象徴する出来事の一つとして「土地闘争」というものがあります。沖縄戦の最中に、日本本土進攻の拠点として、住民を収容所に隔離し造成を進めた「米軍基地」は、終戦をむかえて以降も、沖縄の人びとの生活の場を奪い、各地で「基地化」を進めていきました。

当時の宜野湾村でも、戦禍からの復興を始めていた、県内随一の水田地帯である「伊佐浜」一帯(伊佐・安仁屋・喜友名・新城)において、米軍による土地の強制接収が行われ、それに対する人びとの「生きるための闘い」が繰り広げられ、「伊佐浜の土地闘争」として広く知られています。

『宜野湾市史』の最新刊では、その「伊佐浜の土地闘争」に関する米(軍)側の資料や、宜野湾村や沖縄県公文書館に保管されている歴史公文書、立法院議会資料などの史資料を集め、さらに当時の状況を知る人たちからの聞き取り調査をまとめた「証言」を収録しました。各章では専門家による史資料をふんだんに使った解説もあわせて、通読することにより「伊佐浜の土地闘争」の全体像を把握することができるようになっています。



伊佐浜の田園風景 1955年頃



強制接収後、整地する米軍



土地や家を奪われた伊佐浜の住民

～編集中～

現在、『伊佐浜の土地闘争』(宜野湾市史 第8巻 資料編7 戦後資料編Ⅱ)の内容を、より分かりやすく教育普及させることを目的として、『伊佐浜の土地闘争 ビジュアル版(仮題)』の編集作業を行っています。写真や地図、歴史公文書など、視覚にうったえる資料をふんだんに使って、「中学生に理解してもらう」ことを目標に作業を進めています。

Now working!!

「伊佐浜がわかる 1冊」

戦後の宜野湾村(当時)伊佐浜における「軍用地接収」に関する史資料を収集し、当時を知る人たちの証言を集めてまとめました。「あの時、伊佐浜で何が起きていたのか」について知り、考えるための戦後資料編です。付属DVDに史資料収録。

【販売窓口】

宜野湾市立博物館 《市史に関する問合せ先》

住所: 宜野湾市真志喜 1-25-1

電話番号: 098-870-9317

市教育委員会 文化課

住所: 宜野湾市野嵩 1-1-2

(宜野湾市民会館2階)

電話番号: 098-893-4430



【販売価格】2,500円(税込み)

中堅教諭等資質向上研修(8/8~8/9)



市立博物館では、8月に中堅教諭等資質向上研修・学芸員実習の受入を行いました。皆さんの感想を紹介します。

上江田 香織 先生 (宜野湾小学校)

二日間と短い期間でしたが学びのある充実した研修となりました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。この二日間主に倉庫整理やこども博物館教室、そして常設展示の資料追加設置等に関わらせていただきました。その中で、こども博物館教室では事前準備から当日の開催に至るまで、職員一人一人の細やかな配慮がなされていることに気づきました。その思いが子ども達に安全で楽しく笑顔あふれる体験活動へと繋がることを感じ、自分自身も貴重な体験となりました。また、追加資料の設置等では置き場所、ライトの位置とすべて細かく考えられており、見る側の視点に立ったプロの技を見せていただきました。今回の研修を通して、宜野湾市にはこんなにも素晴らしい資料・道具展示物等が湿度や温度の管理に至るまで、とても細かくそして大切に保管されていることに、とても感動しました。実際に目で見たり、触れることのできるこの素晴らしい博物館を子ども達をはじめ、多くの人々に伝え、学びの場として今後ぜひ活用してほしいと思いました。

玉城 麻由子 先生 (大謝名小学校)

教職に就いて10年目となり、社会的な視野を広げるため、宜野湾市立博物館に2日間社会体験研修を受けさせていただきました。最初は常設展示と企画展示の教育普及のお仕事が主な仕事と思っていましたが、博物館にはたくさんの貴重な資料や歴史・文化遺産が残っており、それらを大切に保管し、継承していくことも重要なお仕事だということを知りました。バックヤードには貴重な資料がたくさんあり、湿度や温度もこまめにチェックし、傷まないように細心の注意は払っていることや、それらを展示・公開する際には見学した人に、より伝わりやすいように長い時間をかけて企画を練り、準備していることがわかりました。職員の皆さんは、一人でいくつもの仕事をこなし、本当に忙しく、でも情熱を持ってお仕事をされていて本当にすごいなと思いました。また、展示されている宜野湾市の歴史の移り変わりの様子や自然の様子、戦時中のことなど詳しく教えて頂いたことを学校で子ども達に教えていきたいと思いました。とてもお忙しい中、2日間の貴重な研修の機会をつくって頂き本当にありがとうございました。

学芸員実習 (8/5~8/19)



これは僕たちが制作した植物プレートです。

学芸員実習は将来の学芸員(博物館で働く専門職)を目指す学生さん達が取り組む実習ですので、結構本格的です。開館・閉館のチェックや常設展示に関する研究発表や、わらば〜体験じゅくのお手伝いなど12日間一生懸命取り組みました。盛りだくさんの内容で忙しかったとは思いますが、その分充実した実習期間になったのではないのでしょうか。

新原 龍平さん(琉球大学)

学芸員実習の為、宜野湾市立博物館でお世話になりました。夏休みの子ども博物館教室やわらば〜体験じゅく、市民講座など来館者と接する機会がとても多く、その準備や企画展の開催もあり体力を使う仕事だと感じました。その中で私は2つの事を学びました。1つは、多くの来館者の方が来る中、年齢や性別、どんな趣味・嗜好を持っているかによって接し方や対応を柔軟に変えなければいけないという事です。普段、自分の中で常識だと思っていることが必ずしも相手の常識になるわけではないので、来館者の方と接するときは常にそういった意識を持つことが重要だと感じました。2つ目は、学芸員の仕事の多彩さです。実際やってみるとイベントも絶え間なく入ってくるので、その準備や本番、また館内の設置物も自分達で作成・修繕するので正直なところ「ここのまですの？」と思うこともありましたが、これが学芸員なんだと思いました。バックヤードに入ったり展示物を設置したりと普段絶対にできない経験をさせてもらい貴重な経験になりました。

今村 彰仁さん(沖縄国際大学)

今回の実習で大きく2つ学ぶことができました。1点目は博物館学芸員の仕事は展示室だけではないという事です。寄贈された大きな甕を洗ったり、館外にある植物紹介のプレートの修理・設置をしたりと作業をする度に学芸員の仕事の奥の深さを実感しました。2点目はコミュニケーションの大切さです。実習中の作業は貴重な資料、重い資料、わらば〜体験じゅくなど学芸員の仕事には一人で出来ないものが多かったです。そんな時は他の実習生や宜野湾市立博物館の学芸員さんに助けやアドバイスを貰いやり遂げることが出来ました。将来、学芸員になれるかどうか分かりませんが、今回で得た経験を元に大学生活や就職活動などに生かしていきたいと思えます。

比嘉 玲奈さん(沖縄国際大学)

今回の実習では本当にたくさんの博物館業務を体験し、博物館職員の仕事がどれだけあるか体験する事が出来ました。例えば毎日、朝夕にある館内チェックや博物館内にある植物プレートのメンテナンス、博物館で行われる「教室」「講座」の設営準備、片付け、来館者の対応など、私が想像しているよりも多く、また多くの分野に渡って仕事があり、本当に博物館の仕事は多いと思いました。毎日、IPMから公文書整理など新しい発見や学ぶべき事が多く期間はわずか12日間でしたが、とても貴重な時間を過ごすことが出来きとても勉強になりました。ありがとうございました。

職場体験 キャリアスタートウィーク



真志喜中学校 1年生 4名、嘉数中学校 1年生 4名の計8名が、職場体験(キャリアスタートウィーク)にきたケロ!



小学校での出前講座や博物館の常設展示室の説明の補助など、博物館学芸員が普段行っている仕事に同行してもらったよ!



真志喜中学校 (12/4~12/5)

嘉数中学校 (12/4~12/6)

島 尚志さん(真志喜中学校)

石川 佳文さん(嘉数中学校)

学芸員の大変な仕事を身で感じて学芸員の大変さがよく分かりました。また、「大謝名小学校」や「かりゆし長寿大学、モクレン」の方々の見学をサポートして交流を深めることができました。今回の職場体験で働くことの楽しさや大変さ喜びを身をもって感じる事ができました。また、博物館では物を保存・展示するだけでなく様々な事をしていくことが分かりました。

僕がこの職場体験を通して分かったことは、最初はこの仕事は簡単そうだなあと考えていたけれど、学芸員さん達のお仕事はとても忙しく新しい知識を覚える為に勉強したりとてもすごいお仕事だなあと見る目が変わりました。将来、博物館で働くか分からないけど働く時は皆さんを目標にしたいと思いました。

相澤 瑞穂さん(真志喜中学校)

仲間 悠堅さん(嘉数中学校)

二日間博物館で職場体験学習をさせていただいてありがとうございます。博物館では大謝名小学校の見学の様子を観察したり館内見学で昔の貴重なものを見ることができて興味をもって学習することができた。森川公園での自然観察では冬なのに虫や植物などいっぱいいておどろいた。これからは博物館で学んだ事を生かして頑張ろうと思いました。

僕は、この職場体験を通してたくさんの事を学ぶことができ、最初にあった自分の博物館のイメージが変わりました。最初は、館内を案内したり、資料の整理をしたりするだけかと思っていました。でも、三日間博物館の仕事を体験してみると、大山小での出前講座では常設展示室から、たくさんの荷物を持ち出したり、フロアマットの清掃や水槽の掃除などで大変さを身をもって知る事ができました。

宮城 裕さん(真志喜中学校)

与那嶺 類さん(嘉数中学校)

今回の職場体験で、今まで自然か歴史か一つしかやっていないと思っていたけど、自然や歴史など色々やっていると分かった。今、展示されている物だけじゃなくて、裏にはすごくたくさんの量の資料があることが分かった。

僕は、最初博物館は物を展示するだけだと思っていました。でも、この職場体験を通してそうではないと学びました。資料を収集することや、資料を保管するということが分かり、仕事のやりがいも感じることができました。僕は職場体験にきてよかったなと思いました。

島袋 夏一さん(真志喜中学校)

友利 裕さん(嘉数中学校)

二日間職場体験でお世話になりました。今回の職場体験で僕は博物館での仕事のイメージが変わりました。この体験学習前まで僕は博物館は、資料・文化財などの保存や展示を主にしていると思っていましたが、この体験の中で文化財・地域、国などの歴史だけでなく、その地域にいる生き物の事についても説明している事を知りました。その他にも学芸員の皆さんが自分の専門分野以外の事も担当しているから企画展ができていたんだと思いました。これからもっと地域の事や自然について学んでいきたいです。

僕は、職場体験を通して仕事のやりがいなどを知る事ができました。僕は、貴重な物を展示する事だけが博物館の仕事だと思っていました。しかし、それだけではなく今回の職場体験を通して学びました。小学校の団体見学では説明をしたり、フロアマットの清掃がありました。三日目の午後にあった受入図書蔵書印押しでは印鑑を押すことや、歴史公文書では枚数を数えるのが大変だということを実感しました。三日間普段できない貴重な体験をさせていただいたり、色々教えてくださりありがとうございました。

千木良 芳範館長からのメッセージ

二十歳になった博物館をふり返る



令和元年6月、宜野湾市立博物館は二十歳の誕生日を迎えました。このためか、一般の皆さんから見ると、今年の博物館は「化石展～土の中からお宝発見!」と「変わりゆく街並み～西普天間の移り変わり～」という二つの20周年記念事業がメインであったと思われるかもしれませんが、しかし、博物館は6本の企画展と市民講座やこども博物館講座、わらば～体験じゅくなど、二十数本の講座を実施いたしました。振り返ってみると、いつもどおりの事業を、ひとつひとつきちんと、いつもより少し力を入れて行って来たところでしょうか。こうしたところに、少し大人になった博物館を感じていただけたら幸いです。

最近の博物館を巡る風は複雑で、思いもかけない方向からも吹いてきます。博物館の新しい役割として、観光への取り組みが求められることなどは、そのひとつの例です。こうしたことに、反発することは簡単です。しかし博物館は、時代の風を読んで対応していく必要もあります。多くの市民や県民の皆さんがそれを望むのであれば、博物館は、知恵を巡らして応えていかなければなりません。それが、大人になった博物館の、大人の対応かもしれません。